

専門学校生の修学状況（中退者・休学者）等に関する調査（令和3年度末時点）

- ◆ 調査対象：全国の国公立専門学校（回答率62.4%）
- ◆ 調査時点：令和3年度末時点
- ◆ 調査趣旨：各専門学校における経済的に困難な生徒に対する支援状況や中途退学者・休学者の状況等について調査

1. 令和4年度前期の授業料の納付猶予・減免の実施状況について

- 令和3年度に引き続き、令和4年度前期についても各専門学校において授業料の納付猶予や、専門学校独自の授業料等減免を実施予定。
- ・ 全体の88.7%の専門学校において前期分の授業料の納付猶予を実施又は実施予定。（全体の47.8%で納付期限を7月以降に設定。）
- ・ 高等教育の修学支援新制度に加え、全体の13.8%の専門学校において、経済的に困難な生徒を対象とした各専門学校による独自の授業料等減免を実施又は実施予定。

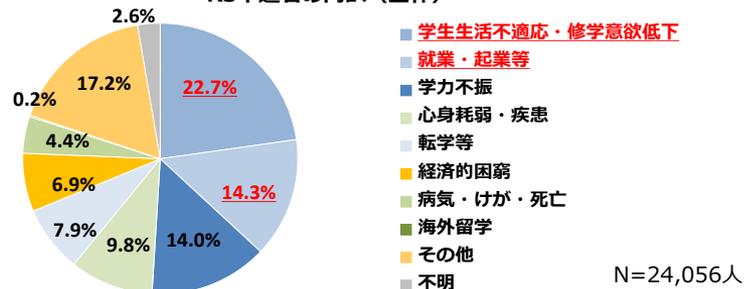
2. 中途退学者の状況（1年間の状況を比較）

- 中退者数の割合は、令和3年度は令和2年度と比べて大きな変化はなく、コロナが理由であると判明している中退者数の割合は、令和2年度と比べて減少している。
- 中退の最も中心的な理由は、学生生活不適応・修学意欲低下（22.7%）、就業起業等（14.3%）など。

専門学校	R3年度 (4月～3月)	R2年度 (4月～3月)	R元年度 (4月～3月)
中退者数	24,056人 (1,111人)	24,326人 (4,027人)	29,038人
生徒数に占める中退者数の割合	5.81% (0.27%)	5.53% (0.92%)	6.69%

※R2年度、R元年度の数値は過去の調査結果より引用
 ※括弧内は、そのうち新型コロナウイルス感染症の影響によるものと回答があった者の数/割合

R3中退者の内訳（全体）



3. 休学者の状況（1年間の状況を比較）

- 休学者数の割合は、令和3年度は令和2年度と比べて大きな変化はなく、コロナが理由であると判明している休学者数の割合は、令和2年度と比べて若干減少している。
- 休学の最も中心的な理由は、心神耗弱・疾患（26.4%）、学生生活不適応・修学意欲低下（13.7%）など。

専門学校	R3年度 (4月～3月)	R2年度 (4月～3月)	R元年度 (4月～3月)
休学者数	4,466人 (435人)	5,863人 (857人)	4,991人
生徒数に占める休学者数の割合	1.08% (0.11%)	1.33% (0.19%)	1.15%

※R2年度、R元年度の数値は過去の調査結果より引用
 ※括弧内は、そのうち新型コロナウイルス感染症の影響によるものと回答があった者の数/割合

R3休学者の内訳（全体）

